

都市再生整備計画 事後評価シート  
善通寺市中心市街地地区

令和7年3月

香川県善通寺市



4) 定性的な効果 発現状況	交通結節点近傍に公共公益施設を整備したことで、施設内のフリースペースにおいて学生同士の交流や地域間交流が生まれ、施設自体のにぎわいの向上が図られた。				
5) 実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	提案事業として事業活用調査(事業効果分析)を実施し、当該計画の分析評価による次期計画の基礎資料として活用している。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	フォローアップ調査も実施したうえで、事業効果の評価の確定を行い、今後の課題から次期計画の内容に反映させる。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	官民連携による 取組	令和4年度より、官民連携まちなか再生推進事業を活用し、普通寺駅周辺の未来ビジョン策定に取り組んでいる。当該基幹事業の各施設は、普通寺駅から半径300mの範囲内に存在していることから、駅を含めた一体的な空間のあり方の方針をエリアプラットフォームと連携し検討している。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	令和6年3月に「普通寺駅周辺地区再生基本計画(未来ビジョン)」を策定し、ビジョンに沿い、まずはまちづくりへの機運熟成を目的とした催し等の開催を検討している。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

## 様式2-2 地区の概要

普通寺市中心市街地地区(香川県普通寺市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値		
・歴史・文化を活用した回遊性と魅力の向上 ・若い世代の居住を誘導する子育て・教育機能の向上 ・歩いて暮らせる市街地としての公共交通・公共施設の連携	中心市街地の回遊性の増加	人/日	1,371	R1	1,950	R6	1,012	R6
	図書館の利用者数	人/年	140,941	H30	400,000	R6	172,986	R5
	公共交通の利用者数の増減率	%/年	-5	H26~30 平均	+5	R6	-12	R5
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偕行社と隣接した施設として図書館や広場等の整備で来街の魅力の向上が図られた。</li> <li>・図書館と市役所、子どもライブラリーの集約整備により市民生活の利便性向上が図られた。</li> <li>・市街地内の回遊を促すための半屋外空間であるステップガーデン等の整備がされた。</li> <li>・市役所と図書館の複合施設整備により、公共施設の集約化が図られた。</li> </ul>							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	誘導施設の整備により、来場者自体は増加したものの、回遊性の向上や公共交通機関の利用向上までには至っておらず、回遊を助長するためのサービスの提供や仕掛けづくりを図る必要がある。そのため、図書館や市役所等を目的に訪れた来街者に対して、滞在目的の拡充や歩行空間として回遊できる仕掛けやサービス提供を行うとともに、周辺の集客施設や公共施設との連携したサービス提供や、イベント等の仕掛け、情報発信等を行い、歩行範囲内での利便性を向上と来街者の増加や滞在時間の延長を図る。また、図書館や偕行社広場並びに、市街地内にある歴史的な資源等と連動した、歩行者の快適滞在に資する空間創出に向けた整備や仕掛け、地域住民や事業者を巻き込んだ取組の実施などを行い、増加した来街者を目的地から周辺に回遊させるとともに、回遊軸の始点、終点でのターゲッ、特に学生や住民等を想定した回遊性向上策として、広場や駅前広場を効果的に利用するための空間創出に向けた整備を行い、市街地内での回遊性向上、滞在時間の延長による賑わいを創出し、エリア価値の向上を図る。							

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	借行社広場	191	広場整備	258.7	広場整備	令和5年(第3回)変更。工事完了に伴う事業費の精査		●	
地域生活基盤施設	人工地盤: 新庁舎ステップガーデン	142	公共空間整備	138.7	公共空間整備	令和3年(第1回)変更。実施設計完了及び事業費精査のため、事業規模を610㎡→357㎡に変更。事業期間を1年延長	実施設計完了のため、影響なし	●	
高質空間形成施設	緑化施設等: 市道一高西側線(歩道美装化)	9	歩道美装化	15.7	歩道美装化	令和5年(第3回)変更。工事費減のため、事業規模を450㎡→300㎡に変更。事業期間を単年度に変更	周辺エリアの空間づくりの方向性の検討のため、工事を延期。影響なし	●	
高次都市施設	テレワーク拠点施設: 図書館屋外ガーデン	-	なし	75	公共空間整備	令和2年(第2回)変更。事業計画の見直しにより、ステップガーデンの一部を図書館屋外ガーデンへ変更のため、事業追加	設計計画の変更が生じなかったため、変更なし	●	
誘導施設	教育文化施設: 普通寺市立図書館	1,170	規模:2,438㎡	968.0	規模:2,490㎡	令和5年(第1回)変更。実施設計完了及び事業費精査のため、事業規模を2,438㎡→2,490㎡に変更	実施設計完了のため、影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	社会実験(道路空間再配分): 市道一高西側線	0	なし	11.0	社会実験	令和4年(第2回)変更。道路空間再配分の検討に資するデータ取得のため追加	2週間という限定的期間での交通社会実験であり、催し等の開催も無かったため、影響なし	●	
	事業効果分析: 基幹事業実施箇所	0	なし	4.0	-	令和4年(第2回)変更。最終年度の事業評価のため追加	影響なし		●
まちづくり活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
普通寺市庁舎建設事業		普通寺市庁舎	3,171	3,786	令和2~3年度	令和2~4年度	令和4度にすでに竣工し、基幹事業施設である図書館と一体的に市民に利用されている。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		基準年度	目標年度	モニタリング			モニタリング		あり	なし
指標1	中心市街地の回遊性の増加	人/日	-	-	1,371	R1	1,950	R6	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 ●	1,012	事後評価	×	●	
指標2	図書館の利用者数	人/年	-	-	140,941	H30	400,000	R6	モニタリング	R5	172,986	モニタリング	△		●
									事後評価	確定 ●		事後評価	△		
指標3	公共交通の利用者数の増減率	% / 年	-	-	-5	H26~30平均	+5	R6	モニタリング	R4-5	-12	モニタリング			●
									事後評価	確定 ●		事後評価	×		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	計測歩行者の約75%が学生(高校生)である中で、計測地点を通行するほとんどが普通寺第一高等学校であり、学校において生徒数がH30に比べ82%に減少していることも歩行者数の減少の一因となっている。ただし、学生以外の通行量で見ても、従前値の半数以下になっていることから、全体的に歩行者数が減少しているといえる。その要因としては、コロナ禍による外出控えの影響がR元~4年度まであり、コロナが5類認定になったR5.5から回復はしているものの、影響が残っていると考えられ、事業効果が想定したほど出なかったと考えられる。	
指標2	目標値の達成には至らなかったが、図書館利用(R5時点)で172,986人と従前値よりは改善されており、図書館に併設された子どもライブラリーも含めると216,892人(R5)と一定の事業効果が認められた。要因としては、コロナ禍による外出控えの影響がR元~4年度まであり、コロナが5類認定になったR5.5から回復はしているものの、影響が残っていると考えられ、事業効果が想定したほど出なかったと考えられる。	
指標3	公共交通の再編・見直しで、市民バス:空海号が令和6年3月で廃止され、デマンド型乗合サービスである「チョイソコぜんつうじ」に変更されたため、令和5年度までの実績となる。モニタリングの段階だが、空海号の利用全体において、年間利用者は減少し続けており、目標に設定している増加に転じることは困難であると考えられる。	移行された交通システムは全く違ったものになるため、利用実績として代用ができず、最終年度の評価ができない。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	こどもライブラリー利用者数	人/年	こどもライブラリーの受付者数	-	-	10,680	R2	モニタリング	R5	43,906	子ども家庭支援センターの機能とともに、整備施設である図書館に併設され、基幹事業の施設に関連する施設であり指標2とともに事業評価できる指標。
								事後評価	確定見込み ●		
その他の数値指標2				-	-	-	-	モニタリング	-	-	
								事後評価	確定見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

対象区域内での交流イベント等の開催が活性化され、区域内の市民等の交流・回遊に寄与している。

○借行社広場の開催イベントによる交流実績

・ウルトラうどんマラニックin中讃スペシャル 500名(R5.3)

・デジタルアート展覧会 来場者数:20,296人(R5.8)

・農商工夢フェスタ2024 来場者数約6,500人(R6.11)

○ZENキューブの開催イベントによる交流実績(指定管理者R5事業報告より)

・毎週水曜開催「ZENキューブ水曜ミマルシェ」:来場者数毎月約160名

・奇数月第4日曜日開催「ZENキューブマルシェ」:来場者数毎月約500名

・秋のぼん・おやつマルシェ:来場者数約500名(R5.10.28)

・ZENキューブ1周年記念イベント:来場者数約800名(R6.1.28)

・ZENキューブファミリーフェスタ:来場者数約500名(R6.2.24)

・キウイ博:来場者数約1,200名(R6.12.21)

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業活用調査(事業効果分析)	予定どおり実施した	提案事業として事業活用調査(事業効果分析)を実施し、当該計画の分析評価による次期計画の基礎資料として活用している。	フォローアップ調査も実施したうえで、事業効果の評価の確定を行い、今後の課題から次期計画の内容に反映させる。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
官民連携事業	予定どおり実施した	令和4年度より、官民連携まちなか再生推進事業を活用し、善通寺駅周辺の未来ビジョン策定に取り組んでいる。当該基幹事業の各施設は、善通寺駅から半径300mの範囲内に存在していることから、駅を含めた一体的な空間のあり方の方針をエリアプラットフォームと連携し検討している。	令和6年3月に「善通寺駅周辺地区再生基本計画(未来ビジョン)」を策定し、ビジョンに沿い、まずはまちづくりへの機運成熟を目的とした催し等の開催を検討している。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市整備等庁内検討ワーキング	都市計画課 商工観光課 政策課 生涯学習課	意見照会: 令和7年1月20日～令和7年1月31日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別									
指標名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業									
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3						
指標名		中心市街地の回遊性の増加 (駅前等の歩行者数)			図書館の利用者数			公共交通の利用者数の増減率						
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	誘導施設:教育文化施設(図書館):普通寺市立図書館	△	目的地としての主要施設である図書館やそれに付随する市役所、ステップガーデン、偕行社広場等が整備され、中心市街地への来街者は増えているが、その多くが自家用車利用での増加であり、指標として設定した歩行者の回遊に結びついていない結果となっている。特に、コロナ禍影響での人流の回復はするものの、外出機会として施設利用の仕方も変わっていることも影響している。また、施設利用として高校生の利用が多いが、高校生数自体が減少する中で、歩行者の増加にまで至る結果となっていない。	III	◎	予測した目標値に至っていない理由としては、コロナ禍での施設利用や外出機会の仕方がライフスタイルの変化とともに変化していることが影響していると考えられる。しかし、従前値よりは利用者は増加し、一定程度の効果は出ており、図書館と市役所、こどもライブラリー等との複合化により、市民生活の快適性は向上しており、効率的な中心市街地への来街はされている。また、定量的ではないが、偕行社広場や整備施設に隣接するZENキューブでのイベント開催やそれに伴う利用者の来街等も整備施設の利用と併せてされていることなどは相乗的な効果は一定程度得られていると評価できる。	I・III	△	公共交通の利用自体は減少傾向の中で、目的施設の整備で外出機会の創出から増加を見込んだが、コロナ禍での影響での外出控えの影響とライフスタイルの変化から公共交通を利用しての外出が大幅に減少したことが影響していると考えられる。併せて、市の財政事情から地域公共交通のシステムをコミバスからデマンドタクシーに変更したため、指標としての計測もできなくなった。	III・IV				
	公園(都市構造再編集支援事業):偕行社広場	△												
	地域生活基盤施設(人工地盤)(都市構造再編集支援事業):新庁舎ステップガーデン	△												
	高次都市施設(テレワーク拠点施設):図書館屋外ガーデン	△												
	高質空間形成施設(緑化施設等)(都市構造再編集支援事業):市道一高西側線(美装化)	△												
提案事業	事業活用調査(社会実験):市道一高西側線	△			△			△						
	事業活用調査(事業効果分析):基幹事業実施箇所	—			—			—						
関連事業														

※目標未達成への影響度  
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 —:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>今後は滞在快適性等向上区域内でのウォークアブル事業(特にソフト事業)との連携強化を図るとともに、市街地内での来街目的となる施設でのサービス提供やイベント開催等と連携したまちづくりを展開し、利便性の向上となった整備施設の利用促進を図り、市街地内の回遊性の向上を図る。</p>	<p>隣接するZENキューブ等とのソフト面(提供サービスやイベントの充実)の連携や、新たなライフスタイル(デジタル化等)に対応したサービス提供なども実施し、利用者属性(子育て世帯や若者)の拡大を図り、施設利用者及び来街者の増加を目指す。</p>	<p>新たな交通システムの利用促進の取組とともに、施設サービスとのパッケージ等を検討し、公共交通共創の取組の検討も視野に入れつつ、来街者の向上につながる交通施策との連携を図る。</p>
------------------	---	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市整備等庁内検討ワーキング	都市計画課 政策課 商工観光課 生涯学習課	意見照会：令和7年1月20日～令和7年1月31日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載した まちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
整備された旧善通寺偕行社附属棟や観光交流センターの活用を市民に広く周知を図り、来訪者や市民が楽しめる市街地の実現	偕行社と隣接した施設として図書館や広場等の整備で来街の魅力の向上が図られている。	偕行社の周辺においては施設が整備され、機能の充実が図られているが、観光交流センター周辺での事業が無く、十分活用されていない状況である。	誘導施設の整備により、来場者自体は増加したものの、回遊性の向上や公共交通機関の利用向上までには至っていない。回遊を助長するためのサービスの提供や、イベントの連携といった仕掛けづくりを図る必要がある。
都市機能や生活利便性の向上を図り、市街地内での居住の維持・増加に転じる対応の実施	図書館と市役所、こどもライブラリーの集約整備により市民生活の利便性向上が図られている。	生活利便性の向上はされてきているが、人口減少はとどまらず、市全体での人口減となっており、市街地においても減少傾向に歯止めがかかっている。	
整備された施設と連携し、回遊できる仕組みの整備や市民バス等の移動手段との連携により、各拠点の魅力の増大と来訪者の増大	市街地内の回遊を促すための半屋外空間であるステップガーデン等の整備がされた。	整備された誘導施設での催しなどで、来館者数は以前より増加した。しかし、他の催しとの連携などの回遊目的、回遊する手段、それぞれの多様化が必要である。	
公共施設総合管理計画での公共施設の削減目標を35%に基づき、都市機能・公共施設の集約化	市役所と図書館の複合施設整備により、公共施設の集約化が図られた。	機能の集約はできたがサービスとしての効率化を更に図っていく必要がある。	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	図書館や偕行社広場の利用者増加や滞在時間を延長するための働きかけ、来街目的の拡充を図る。	図書館や市役所等を目的に訪れた来街者に対して、滞在目的の拡充や歩行空間として回遊できる仕掛けやサービス提供を行い、来街者の増加や滞在時間の延長を図る。	・グループウェアを利用した行事予定の情報共有等の情報発信や施設利用の醸成など(まちづくり啓発活動事業) ・快適な滞在空間、歩行空間の整備や展開(滞在環境整備事業)
	整備された誘導施設を中心にした市民の生活利便性の向上・維持を図る。	周辺の集客施設や公共施設との連携したサービス提供や、イベント等の仕掛け、情報発信等を行い、歩行範囲内での利便性を向上させる。	
	ステップガーデン等を利用した回遊性向上のための空間や仕掛けの創出を図る。	半屋外空間・半公共空間としての活用できる空間の創出や仕掛けによる回遊性の向上を図る。	

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	整備された施設を中心として、回遊性の向上を図るための、利用目的に応じた空間創出・演出、サービス提供等が必要。	図書館や偕行社広場並びに、市街地内にある歴史的な資源等と連動した、歩行者の快適滞在に資する空間創出に向けた整備や仕掛け、取組の実施などを行い、増加した来街者を目的地から周辺に回遊させるとともに、地域住民や事業者を巻き込んだ取組等によるエリア価値の向上を図り、にぎわいの創出につなげる。	・偕行社広場と接する市道一高西側線において、歩行者空間として偕行社広場と一体的な活用を行うための整備(高質空間形成施設) ・上記整備と併せて、滞在空間としての利用できる手法や取組についての社会実験(滞在環境整備事業)
	JR普通寺駅から総本山普通寺までの回遊軸の形成・強化を図るため、普通寺駅前広場や南大門にぎわい広場の滞在空間としての向上を図る必要がある。	回遊軸の始点、終点でのターゲット、特に学生や住民等を想定した回遊性向上策として、広場や駅前広場を効果的に利用するための空間創出に向けた整備・取組を行い、市街地内での回遊性向上、滞在時間の延長、エリア価値の向上による賑わいを創出する。	・JR普通寺駅前広場での快適空間創出のための社会実験と、その結果に基づく整備、ソフト事業の展開(滞在環境整備事業) ・南大門にぎわい広場での快適空間創出のための社会実験と、その結果に基づく整備、ソフト事業の展開(滞在環境整備事業)

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・人をまちなかへ誘導するには、人が駅周辺に来訪する仕掛けと、そこから回遊する仕掛けの組み合わせが必要と感じる。ハードとソフトの組み合わせが必要だが、民の主体化が伴うかも重要。市の事業だけでは限界がある。そのため、民間でのマルシェ開催など親子の集まるイベントや国際交流のイベントの実施と連動するなど、地域住民を巻き込みながら、エリアの価値向上に結び付く取組を展開していくことも検討していく。

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	中心市街地の回遊性の増加	人/日	1,371	R1	1,950	R6	確定 ●	1,012	×	あり ●	●			
							見込み ○			なし ○				
指標2	図書館の利用者数	人/年	140,941	H30	400,000	R6	確定 ●	172,986	△	あり ●	●	R7.6	令和6年度における図書館の利用客数(令和6年度の市民への貸し出し者数実績)を毎月集計する。最終月:R7年3月分	
							見込み ○			なし ○				
指標3	公共交通の利用者数の増減率	% / 年	-5	H26~30平均	+5	R6	確定 ●	-12	×	あり ●	●			
							見込み ○			なし ○				
その他の数値指標1	子どもライブラリー利用者数	人/年	10,680	R2	/		確定 ●	43,906				R7.6	令和6年度における子どもライブラリーの利用客数(令和6年度の利用者数実績)を毎月集計する。最終月:R7年3月分	
その他の数値指標2					/		確定 ●							

### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	不測の事態が生じた場合での、効果性についても検討し、過大な目標設定にならないような検証を行う必要がある。
	うまくいかなかった点	コロナ禍や公共交通のシステム変更といった、予定外の事象により計測値が評価できない若しくは計測できない状況が発生した。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	事業箇所と評価値の計測箇所の関係性・効果性を分析したうえで、事業と指標設定を実施する必要がある。
	うまくいかなかった点	回遊性を評価するにあたって、事業箇所が1部の箇所に集中したため、施設間での移動が広範囲に発生せず、回遊性の向上に寄与できなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	市民へのアンケートや隣接する高校に在学する高校生とのワークショップを実施し、意見や将来像などを共有することができた。	—
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	高質空間形成施設については当初美装化のみとしていたが、居心地の良い空間形成について検討を挟むことにより、市民とともに考える空間設計ができた。	交通社会実験のみの実施となってしまったため、空間活用の点も含めた社会実験を経た空間設計としていく必要がある。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

### 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

善通寺市中心市街地地区(次期計画)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	窓口での閲覧	令和7年3月3日～ 令和7年3月14日	令和7年3月3日～ 令和7年3月14日	窓口申出	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	鈴木 達也(香川大学創造工学部)	R7年3月20日頃	都市整備部都市計画課	善通寺市都市計画審議会条例	善通寺市都市計画審議会
その他の委員	市農業委員長、市連合自治会長、市連合婦人会 市商工会議所専務、市議会議員 3名 県中讃土木事務所(室長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	通行量の計測方法は今後は検討すべき。
	成果の評価	評価指標の設定で、回遊性の指標として県道善通寺停車場線の通行量だけでは適正でない。施設利用に関しては現れていない効果もあると思う。
	実施過程の評価	—
	効果発現要因の整理	指標の達成だけでない効果も勘案して、単に目標達成しないといった悪い結果に見せない方が良い。
	事後評価原案の公表の妥当性	—
	その他	・駐車場を人流発生源として考えているが、イベント等で駐車場を利用すると足りなっているのではないか。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	確認済み
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場の利用等でも話題作り等の別の視点でのソフト的な展開も考えるべき。</li> <li>・善通寺駅が木造駅舎最古であることを活用できる、にぎわいや回遊性を考えるべき。</li> <li>・にぎわい広場の駐車場としての誘導の仕方など、旅行社との連携等も考えるべき。</li> <li>・回遊性を考えるにはターゲットを絞るべき。その場合、観光客視点でなく学生や生活者視点を重要視すべき。</li> <li>・にぎわいの創出に向け、市街地のファンの醸成により、事業者の実施意欲につなげていく仕組みなども必要。</li> </ul>
	フォローアップ	—
	その他	—
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	確認済み
その他	—	—

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

### (7) 有識者からの意見聴取

#### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--